

輝く! 紀の国の教育

NO.
53
2025.7

かがやく! きのくにのきょういく | WAKAYAMA PREFECTURE EDUCATION PUBLIC RELATIONS PAPER



有田市立糸我小学校「田んぼの学校」

目次

P4 — 学校での取組を紹介します!

和歌山県立南紀はまゆう支援学校
「全国ボッチャ選抜甲子園オープン」の部に出場

輝く! 紀の国の先生

P5 — きのくに教育めぐり (印南町教育委員会)

P6 — 新たな県指定文化財のご紹介

P7 — 展示・イベント

特集 (P2~3)

教室を
飛び出そう!!

豊かな心の育成をめざして

教室を飛び出そう!!

豊かな心の育成をめざして

本県では、こどもたちの豊かな心を育むために、ふるさと学習や農業体験、森林学習など、様々な体験学習を学校で実施しています。今回は4つの授業や体験活動を紹介します。

「ひきよせ」がっないだご縁から

白浜町立日置中学校 海の森プロジェクト

波打つ音が聞こえる日常。校舎の窓には太平洋の大海原。白浜町立日置中学校では、この「日置の魅力」を伝えたいと、地元企業や地域と連携し、生徒手作りのフリーマガジン「ひきよせ」を作成しました。この冊子を偶然手に取った日置（ひおき）電機株式会社（長野県上田市）とのご縁からはじまった共同研究が、「海の森プロジェクト」です。地球温暖化対策として注目されているアマモ※に着目し、近年世界中で減少が問題となっているアマモ場の再生を目指し、探究学習を続けています。

水槽内でアマモの種が発芽する条件（塩分濃度・土の成分等）を生徒自身が考え、何度も失敗をしながら実験を繰り返し、ようやくアマモの発芽と種子の形成に成功しました。苗を増やし、地域の海に植えることを目標に活動する中で、生徒の責任感が育ち、ふるさとの海や自然を守るための様々な活動へと広がっています。されど、これは果てしない作業。日置（ひき）と日置（ひおき）の挑戦は、これからも続きます。

※アマモ…海洋生物の産卵場所や住処。水質の浄化と酸素供給に大きな役割を果たしている。



地域とともにまちづくり

和歌山県立粉河高等学校 KOKÔ塾

粉河高等学校には、2002年に発足したKOKÔ塾「まなびの郷」という活動があります。年齢や職業の異なる地域の方々や交流したり、まちの活性化に取り組んだりすることで、地域に愛着を持ち将来地域に貢献しようとする態度を身につけることを目的に、2つのグループ（WG）で活動しています。

「まちづくりWG」では、2019年に粉河地域の盆踊り大会を復活させました。コロナ禍の中断はありましたが、地域の方々の要望に応え、昨年「KOKÔ×KINOWA～踊～」として再び実施することができました。

「教育福祉WG」では、粉河中学校の生徒に地域の文化や歴史を案内する「粉河ガイド」を行ったり、七タプロジェクトとして、小学生とともにとんまか通りで笹に短冊を飾ったりしました。

こういった活動を繰り返し体験することで、地域の方々から必要とされている有用感や自己肯定感が一層高まります。

これからも、この活動が地域になくてはならないものであるよう、KOKÔ塾「まなびの郷」に取り組んでいきます。



アイガモ放鳥

苗取り

ふるさとの自然から学ぼう～体験と遊びを通して～

田辺市教育委員会 森林環境教育カリキュラム

「木の国」と呼ばれる、豊かな森林に囲まれた和歌山。田辺市教育委員会では、田辺市熊野ツーリズムビューローの協力のもと、従来の熊野古道の歴史や森林に関する学習に、木工体験、植林、間伐等の森林でのフィールドワークといった体験活動を組み合わせた「森林環境教育カリキュラム」を推進しています。

こどもたちは事前学習において、人と自然との関わりについて学んだあと、実際に森林の中に入り、木や土に触れ、水の流れや植生について学びます。ハンモックやマットを使った森林浴体験や、のこぎりを使った丸太切り体験では、道具の使い方や、自然の中で遊ぶ楽しさを肌で実感します。また、伐採現場を見学し、木が加工されて商品になる過程を知ること、共存することの大切さを学び、自然の価値を再認識します。

今後は田辺市内全ての小学校において体験活動を実施し、森林だけでなく、川へ、海へと体験活動を広げていく予定です。



丸太切り体験



森林浴体験

県教育委員会から

情報化や少子化が進み、外で遊ぶこどもが減少している現代社会において、こどもたちに様々な体験の場を提供する学校や地域の役割がますます重要になってきます。

自分の目で見、手で触れて、考える体験は、教科書からは得られないリアルな体験となり、自律性や積極性の向上、人間性の形成につながっていきます。また、体験の有無が、こどもたちの健康面にも影響することが分かっています。

和歌山の豊かな自然・文化・歴史に触れながら、ふるさとへの理解と愛着を育むとともに、将来への視野を広げることができる取組を引き続き進めていきます。

第2回

わかやまスクールパワーアップ事業 ～公立学校等の取組を応援します!～ 募集期間▶8月1日(金)～8月29日(金)

県内の公立学校等が独自に実施する、児童生徒の主体的な取組や、地域の実情に応じた学校の取組を応援するための補助金事業です。

こどもたちの力を伸ばしたい!
学校を活性化したい! 地域とさらに連携を深めたい! そんな取組の応募をお待ちしています。

問 県義務教育課教育改革班
☎073-441-3661

詳しくはこちら



和歌山県PRキャラクター「きいちゃん」

ボッチャに挑戦！ 全国ボッチャ選抜甲子園オープンの部に出場

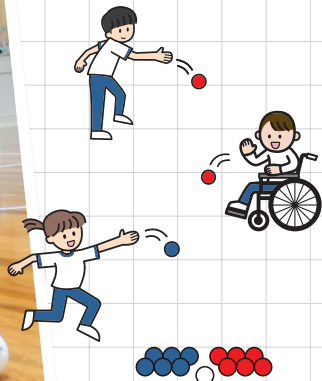
県立南紀はまゆう支援学校では、体育の授業や休憩時間などの時間を活用し、パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」競技に取り組んでいます。ボッチャは、年齢や性別、障害のあるなしに関わらず、**すべての人が一緒に競い合えるスポーツ**です。

令和7年2月、一般社団法人日本ボッチャ協会主催「ボッチャキャラバンin和歌山」が開催され、同校を会場に東京

パラリンピック日本代表中村拓海選手をはじめとするボッチャ日本代表（火ノ玉JAPAN）選手を迎えた体験授業が行われました。同校の高等部生徒たちは、代表選手の戦術や戦略に身近に触れ、その正確さや力強さに何とも言えない緊張感を味わいました。ボッチャ競技への関心や意欲をより一層高める機会となりました。

こうした中、「全国ボッチャ選抜甲子園」において、本年度から、肢体不自由生徒のみでチームを編成することが難しい場合、肢体不自由のない知的障害生徒とチームを組み、予選に参加できる「オープンの部」が新設されました。

同校では、これを契機に、中学部生徒が**チーム「パーシー」**を結成し、大会への初出場に向けて練習に励んでいます。生徒たちは、戦術を話し合ったり、狙い通りの投球ができた時にはともに喜びあったり、また、うまくいかなかった時にはともに声を掛け合い励まし合ったりと、ボッチャ競技を通じて**他者を思いやる気持ちや主体的に取り組む力**が高まっています。大会への出場が、ともにスポーツに励む選手同士の交流を深める機会となることを期待しています。



輝く！ 紀の国の先生

和歌山県立和歌山さくら支援学校 岩上 実紗先生

今回は、県立和歌山さくら支援学校 岩上実紗先生をご紹介します。児童生徒の自立をめざし個々に合わせた学習を追求する岩上先生の思いを、インタビューを通してお伝えします。



Q 教員になったきっかけは？

こどもの頃、近所の特別支援学校でイベントに参加したり、一緒に遊んだりして、**特別支援学校が身近な存在**でした。働く先生が楽しそうに見えて、教員になりたいと思いました。

Q 教員になってどう思いましたか？

実際は想像していたより大変でした。でも、とても楽しい。時間をかけて指導したことができるようになったときなど、こどもの成長を感じたときにやりがいを感じます。



Q 何か工夫していることは？

授業中は、余計なものが視界に入ってしまうと集中が途切れないように、整理整頓を意識しています。また、指導すべきときはしっかりと指導しつつ、毎日笑顔で過ごせるように楽しい雰囲気づくりを心がけています。

Q こどもたちの「こんなところがかわいい」ところは？



やることすべてに意欲的で楽しもうと取り組んでくれるところ。人懐こくて、**存在がかわいい**。最近では、「マカトンサイン」を覚えてお互いのコミュニケーションが少しずつとれてきています。

Q こどもたちにどんな風に成長してほしいですか？

友達や先生と楽しい思い出を作ってくれ。そして、社会に出てからその思い出を糧に、しんどいときも頑張れる大人になってくれたらうれしいです。

Q 今後、力を入れて取り組みたいことはありますか？

自立活動の時間を充実させたいです。個々の状態に合わせた内容の指導で、特別支援教育のミソといえる指導です。これが難しいんですが、**自立活動は、やればやるほどこどもたちが変わっていく**のを実感しています。とても大事だと思うので、今年はもっと頑張りたいです。

きのくに 教育めぐり

印南町教育委員会

印南町は、海と山に囲まれた自然豊かな町です。温暖な気候を活かし、エンドウやミニトマト、スイカ、縁起物の千両などの特産品が生産されています。歴史的には、熊野古道の要所「切目王子」や、かつお節、真妻わさびの発祥の地として知られています。自然、歴史、文化が調和する印南町へ、ぜひお越しください。



教育長挨拶

印南町教育委員会 教育長 平尾 潔司

印南町では、3歳児から中学校卒業までの連続性・系統性のある義務教育12ヶ年事業を進めています。しかし、全国的に少子化の波が押し寄せてくる中で、本町においても、現在4中学校を1校に統合を進め、令和10年4月開校を目指すとともに、将来の小学校と施設一体型小中一貫教育の姿を描きながら高台での造成工事、新設中学校建設に向けた取り組みを進めています。統合のコンセプトは、「安全・安心、一人一人を大切に、印南から世界へ。」として、英語教育、ICT教育、防災教育等を充実させ、「豊かな心・自立心を育む子育て・教育の郷 いなみ」に取り組んで参ります。

印南町教育委員会の令和7年度主な取り組み

1 3歳からの「義務教育12ヶ年事業」の推進

幼児期から中学校卒業までの12年間を一貫した教育として位置づけ、認定こども園・小学校・中学校が連携し、こどもの発達段階に応じた切れ目のない教育を行います。特にこども園では、加配教諭を配置し、これにより、こどもたちが安心して学び、成長していける基盤を整えます。

2 小中学校の給食無償化の継続

印南町ではすべての小・中学生が等しく温かい給食を食べられるよう、自校方式の給食を導入しています。また、経済的な負担を軽減し、保護者が安心して子育てできる環境づくりを目指すため、給食費の無償化を令和6年度から実施しています。



3 英語教育の充実

認定こども園から中学校まで、外国語指導助手（ALT）を2名、こども園にネイティブ講師1名を配置し、英語にふれる機会を豊富に設けています。また、中学3年生の英検3級受験費用を町が支援し、こどもたちの英語学習への意欲を高めていきます。



未来を見据えた学びの場を ～中学校統合の取り組み～

印南町では、町内にある4つの中学校を再編し、令和10年4月には新たな統合中学校を開校する予定です。この新しい学校は、「安全・安心、一人一人を大切に。いなみから世界へ～学校・地域の活気とICT、英語教育の充実による人材の育成～」をコンセプトに、こどもたち一人一人が主体的に学び、仲間とともに成長できる環境を整備していきます。



一人一人に寄り添う教育

統合により学級規模が大きくなることから、生徒一人一人の生活や学力に目を配りながら、個に応じた指導を組織的にを行います。学習の遅れや悩みを抱えるこどもにもきめ細かく対応できるよう、教師の指導力の工夫・改善に取り組みます。また、不登校やいじめのサインを見逃さない体制づくりにも注力し、スクールカウンセラー等の専門職を配置、心のケアも含めた支援を行います。さらに、学習や生活の支援が必要な生徒への対応として、町独自の学習支援員の配置や特別支援教育の充実を進めます。個別の指導計画に基づき、自立と自律を育む教育を実施していきます。



地域とともに歩む学校

新しい学校でも、これまで大切にしてきた地域とのつながりや連携活動はそのままに、地域とともにある学校づくりを進めます。地域の皆さまと共にこどもたちの成長を見守り、支えていける関係を大切にしていきます。

未来の学校施設

統合に伴う新校舎の整備では、以下のような未来を見据えた教育環境を目指します。

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた、柔軟で創造的な学習空間
- 新しい生活様式を踏まえた、健やかな学習・生活空間
- 地域や社会と連携・協働した、ともに創造する共創空間
- こどもたちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境
- 脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境



新たな 県指定文化財 のご紹介

令和7年3月18日(火)に開催した教育委員会定例会において、「大般若経」と「紀伊徳川家墓所」を新たに和歌山県指定文化財に指定しました。これにより、県指定文化財の件数は591件となりました。今回は、これらの新規指定文化財についてご紹介します。

有形文化財(書跡・典籍) 大般若経(600帖)

海草郡紀美野町に所在する小川八幡神社所蔵の大般若経は、奈良時代から室町時代にかけての写本全600帖を全てそろえる、県内で最も古い大般若経です。大般若経は、災いを祓う力を持つと信じられました。小川八幡神社での集積は正平18(1363)年頃に始められ、約60年後にひとまず完了しました。奈良時代に紀伊国で発願された民間写経を多数含み、奈良・平安時代の写経が全体の8割を占める大般若経として極めて貴重です。また、中世に境相論の舞台となった小川荘の、結束と信仰の営みを示す資料としても高い価値を有していることから、有形文化財(書跡・典籍)に指定されました。



記念物(史跡) 紀伊徳川家墓所(1,253㎡)



紀伊徳川家墓所は、和歌山市吹上に所在する日蓮宗報恩寺の境内に立地します。寛文6(1666)年に紀伊徳川家初代藩主・徳川頼宣の正室・瑤林院の菩提を弔うため、二代藩主・光貞により墓所が整備されました。墓所内には、藩主正室の墓石をはじめ、藩主の側室・子息・息女の墓石が建立されています。

当墓所については、『南紀徳川史』において明治8(1875)年に改葬が行われたことが記されていますが、改葬の痕跡や絵図との比較から、瑤林院の墓石やその周囲の改修は行わずに現在の墓石配置に改修したと考えられます。

紀伊徳川家墓所は、御三家である紀伊徳川家の藩主に関係する人物の墓所であり、墓石が良好に残存しているだけでなく、江戸時代から明治初頭にかけての親藩における墓所の変遷が確認できるという特質を有しており、資料的価値が高いものであることから、記念物(史跡)に指定されました。



県内の文化財について詳しく知りたい方は、ウェブサイト「わかやまの文化財」をご覧ください



展示・イベント

本県には、美術作品や文化財などの「和歌山の宝」がたくさんあり、これらを直に鑑賞できる場・機会を増やすため、県立博物館施設では様々な企画展覧会を開催しています。特に高校生までの児童生徒については、入館を無料にしていますので、友達同士や家族連れで、ぜひお越しください。

いずれも休館日は月曜日(祝日の場合は翌平日)です。
県立近代美術館・県立博物館・県立紀伊風土記の丘・県立自然博物館は有料ですが、高校生以下・65歳以上・障害者の方は無料です。詳しくは各館ホームページをご覧ください。

県立自然博物館

特別展

所 海南市船尾370-1 ☎073-483-1777

再発見!紀の川の魚類

期間 7月19日(土)~8月31日(日)
場所 自然博物館レクチャールーム
通常の入館料で観覧いただけます



今年の特別展のテーマは、和歌山県を代表する河川である紀の川の魚たちです。紀の川にはどんな魚が暮らしているのか?人と魚はこれまでにどのような関わりを持ってきたのか?今回の特別展では、身近で知らない紀の川の魚類の魅力を皆さんにお伝えします。

県立博物館

夏休み子ども向け企画展

所 和歌山市吹上1-4-14 ☎073-436-8670

くらべてみよう!ふたりの絵

期間 8月2日(土)~9月23日(火・祝)

ずっとむかし、江戸時代のわかやまに、とても絵のじょうずなふたりの画家がいました。桑山玉洲さんと野呂介石さんです。一歳ちがいで、友だちでもあり、きっとライバルでもあったふたり。絵をみくらべて、それぞれの好きなところをみつけてみてね。



那智豊墨図(なちじょうらんず) 野呂介石筆(当館蔵)

県立図書館

サマー遊ing2025

所 和歌山市西高松1-7-38 ☎073-436-9530

~遊びの中で「学ぶ楽しさ・知るよろこび」~

期間 8月3日(日)~6日(水)
※月曜休館日を除く3日間

ウミガメの赤ちゃんとのふれあいを通じて、和歌山の豊かな海を体験!他にもおもしろ工作、勾玉づくり、こども落語寄席、高校生によるマルシェ、当館司書による楽しい企画を予定しています。



県立近代美術館

なつやすみの美術館15

所 和歌山市吹上1-4-14 ☎073-436-8690

美術の歴史と歴史の美術

期間 7月12日(土)~9月15日(月・祝)

こどもも大人も、さまざまな世代が一緒に楽しむ展覧会「なつやすみの美術館」。毎年、夏休み期間に開催しているこのシリーズも15回目となりました。美術館に作品がある理由やその並び方について、考えたことはありますか?今回は「歴史」をキーワードに美術の世界を探っていきます。学校の先生たちと一緒に作ったワークシートも準備しています。



昨年度の様子(大学生と一緒にトーク)



高井貞二《エミгранトの街》1940年(当館蔵)

和歌山をめぐるローカリズムとモダニズム

期間 7月12日(土)~9月15日(月・祝)

ローカルであること、モダンであること、私たちが暮らす和歌山という地域をめぐる主として明治時代以降の近代という時代と美術について、コレクションを中心に振り返ります。



シアトル・マクブライド・スタジオ《ブロンズに寄る保田龍門》1920年(当館蔵)

県立紀伊風土記の丘

夏期企画展

所 和歌山市岩橋1411 ☎073-471-6123

高野山麓・山里のしごと

期間 7月12日(土)~9月7日(日)

高野山麓の山里の集落に息づいてきた仕事や生活、信仰に関する民俗文化財を中心に高野山を支えてきた集落のくらしぶりについて紹介します。



櫃子(ひし)の搾油用具(当館蔵)

教育長
エッセイ

誰ひとり取り残さない教育の充実

～教育と福祉の連携～

教育長 今西 宏行



私は、令和5年4月から令和7年3月までの2年間、県庁の福祉保健部というところで部長をしていました。福祉保健部では、医療や介護、障害者福祉、こども・子育て支援などを所管しています。（こども・子育て支援事務については、令和6年4月から共生社会推進部に移管しています。）いわゆる社会保障制度に基づいて、病気になった人には医療を、高齢になって日常生活に支援が必要になった人には介護サービスを、障害のある人や経済的に困難な状況にある人には福祉サービスを、そして、子育て世帯には、出産や保育に関する支援を提供する仕事です。我が国は、他の諸外国に比べても社会保障制度が充実していて、一人一人、その人の置かれている状況に応じたきめ細やかな支援制度が用意されています。その一方で支援が必要な人や家庭の中には、社会から孤立していて、支援にアクセスできていないことも多くあります。

ここで教育に話を移します。学童期における心身の健全な育成は、最も重要なことの一つと言えます。そのため、生活習慣が確立できていないこどもたちや学習習慣がついていないこども

たちに対しては、各学校が、様々な工夫をしながらそれぞれのこどもに合わせた指導を行っています。そうした中で、県教育委員会では、こどもたちだけでなく、その家庭を含めて丸ごとサポートする必要があるのではないか、それには、教育だけでなく福祉の支援も必要ではないかとの考えから、3年前にそうしたことを行うための研究チームを立ち上げました。教育委員会と福祉保健部、共生社会推進部の若手、中堅職員が中心になって、それぞれの所管、立場の壁を乗り越えて、本音で語り合い、検証を重ねてきました。去年は、2つの市町で「家庭丸ごとサポートチーム」を作って頂くための研修会を開催するなど、研究チームの活動は、一步一步、前進しています。

福祉の支援は、それを必要とする人が社会のどこかで繋がっていてくれば届けることができます。学校は、児童生徒、保護者を通じて多くの県民の皆さんと繋がっています。福祉へのアクセスのためにも学校は大変重要な役割を担っています。教育委員会と福祉保健部、共生社会推進部の研究チーム「教育と福祉のカタリバ」の詳細については、また次回お伝えします。

TOPICS 高校生等奨学給付金(奨学のための給付金)制度について

高校生等の授業料以外の教育費負担を軽減するため、以下の要件を全て満たしている方（世帯）に対し、高校生等奨学給付金（奨学のための給付金）を給付します。

対象

令和7年7月1日現在、以下の要件を全て満たしている方（世帯）

- 1 高校生等が高等学校等就学支援金又は学び直し支援金の対象である学校に在学していること
- 2 保護者等が生活保護を受給（生業扶助を措置）又は、令和7年度の道府県民税所得割の額と市町村民税所得割の額とを合算した額が0円（非課税）であること、若しくは家計が急変し、非課税相当となっていること
- 3 保護者等が和歌山県内に住所を有していること
- 4 高校生等が高等学校等就学支援金又は学び直し支援金支給の資格を有する者であること

申請方法

県内の学校へ通学されている方

通学されている学校で申請書を受け取り、必要書類を添付のうえ学校へ提出してください。

県外の学校へ通学されている方

県へ直接申請してください。
申請書は下記問合せ先で直接入手するか、郵送を希望される場合、下記の問合せ先までその旨連絡してください。

申請書等は下記二次元コードからダウンロードも可能です。

公立



私立



問合せ先 公立 県生涯学習課 奨学班／073-441-3728

私立 県文化学術課 学術振興班／073-441-2098

TOPICS 和歌山県教育委員会から 補充講師登録のお知らせ

和歌山県では、講師登録者を募集しています。
学校で勤務してみたい方はぜひご登録ください。

- 募集区分/常勤講師、非常勤講師
- 応募資格/それぞれに必要な資格・免許を有する方
- 応募書類配布/和歌山県教育委員会 教職員課のWEBサイト



<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500300/d00153550.html>

問合せ先

小中学校希望 紀北（有田地方以北）→ 紀北教育事務所
紀南（日高地方以南）→ 紀南教育事務所
県立高校・特別支援学校希望（全県）→ 教職員課



申し込みは左記各所まで応募書類を郵送もしくは持参のこと。

和歌山県教育委員会 SNSについて

県の教育施策や学校活動など、教育に関する最新情報を発信していますので、ぜひ、チェックしてみてください！



ぜひ、フォローと「いいね!」をお願いします！

